

厚生連庆より



2021
No.125

富山県厚生農業協同組合連合会

☆厚生連高岡病院☆

「ダヴィンチXi」によるロボット支援手術（腎、前立腺、膀胱がん）を多数実施!!
超高性能レーザー「ルミナスパルス120H」での前立腺と尿路結石の治療を開始!!

厚生連高岡病院

泌尿器科診療部長

よつやなぎ さとし
四柳 智嗣



泌尿器科はおもに腎臓、尿管、膀胱、前立腺、外性器の病気（がん、排尿トラブル、尿路結石症、炎症など）を扱うところです。

特に加齢により増加する病気が多いのが泌尿器科の病気の特徴です。60歳以上の78%は何らかの排尿トラブルがあると言われ、男性の前立腺肥大症は60歳で50%以上、85歳までに約90%で起こります。尿路結石症の生涯罹患率は12%、再発率は50%、前立腺がんは男性のがん罹患率で第2位になり、さらに増加する勢いです。このように多くの方がなんらかの泌尿器科の病気にかかる可能性があります。実際に日々の診療で年々患者さんの数が増えていることを実感しています。

その中にはおしっこ調子が悪いけど…、年のせいだから…、赤いおしっこが出たけど…、陰のうが腫れているけど…恥ずかしいから、面倒だから、と受診をためらったばかりに重大な病気の発見が遅れてしまった患者さんも泌尿器科の診療ではめずらしくありません。どんな病気でも早期発見、早期治療が大切です。気になることがあればぜひ泌尿器科を受診してください。私たちの病院では、多数の優しく経験豊富なスタッフがチームとなり、患者さんへの親切で丁寧な診療を心がけています。もちろん進んだ病気、病状であってもスタッフ一丸となりサポートいたします。医学の進歩によって、よくならないと思われていた病気でも、老化現象でも昔よりかなりよくすることが出来ます。

私たちの病院の特徴は、くすりでの治療が困難な病気に対して最先端で質の高い治療を提供することです。手術支援ロボットの最上位機種である「ダヴィンチXi」を使ったロボット支援手術は令和元年9月に前立腺がんの手術を開始してから、その後に腎がん、膀胱がん、腎盂尿管移行部狭窄症の手術を、週に2件から多いときは4件のペースで、これまでに約150例行い良好な成績を収めています。これまで行ってきた開腹手術、従来の腹腔鏡手術と比べても、明らかに患者さんの体にかかる負担が軽く回復が早いという利点があり、さらに極めて正確で細かな処置ができるので手術の質が著しく向上しています。前立腺がんであれば尿失禁の改善が早く、性機能の温存の成績も向上し、腎がんの手術であれば腎機能の温存と正確な切除、膀胱全摘では回復の早さは手術を行って



の家族、知人が手術される立場になったら間違いなくロボット支援手術を希望します。そのくらいこれまでの手術方法との大きな違いを術後の患者さんを診察して日々実感しています。皆様方も泌尿器がんの病気に不幸にもかかることがあれば、ぜひロボット支援手術を検討されることをお勧めいたします。（＊病状によってはロボット支援手術ができない場合があります）

私たちの病院のもうひとつの特徴は、ダヴィンチ手術だけではなく、がん以外の疾患の手術にも全力で治療にあたることです。ダヴィンチのある大学病院や基幹病院の泌尿器科の多くは、がん以外の疾患の手術を多くはしない傾向があるようです。病院情報局（<http://hospia.jp/dpc>）ではいろいろな病院の手術件数を調べることができます。ぜひ参考にしてください。私たちはダヴィンチ以外の手術もすべて減らすことなく、手術までお待たせする期間をできるだけ短くして対応しています。

当科の得意とする疾患のひとつ、前立腺肥大症に対する内視鏡手術には、古くからある経尿道的前立腺切除術（TUR-P）や比較的新しい各種のレーザー治療（PVP、CVP、ツリウムレーザー治療）など多数の方法がありますが、私たちの病院で行っているレーザー治療はホルミウムレーザー前立腺核出術（HoLEP：ホーレップ）です。入院が短く、低侵襲で、痛みが軽く、根治性に優れた手術法です。

ごく小さな肥大症の手術ではそれぞれの手術方法の治療成績に大きな差はないとみなされていますが、大きな前立腺肥大症の手術にHoLEP以外のレーザー治療（PVP、CVP、ツリウムレー

ザー治療）は不向きであり、HoLEPが最も優れていると考えられています。海外の研究で、根治性や治療効果の面でHoLEPが最も優れていると証明されているので私たちはHoLEPを標準の手術方法としています。日本ではHoLEPを実施できる施設はあまり多くはなく、北陸では当院を含めて数か所でしか実施されていません。当院以外の北陸のHoLEP実施施設では年間10～20件前後（病院情報局<http://hospia.jp/dpc>）しか行われていないようです。

HoLEPの技術の習得には週に1～2件の手術を行い、比較的短期間で50例から100例を経験する必要があると言われています。年間に100例以上の

HoLEPを行っている病院は当院を含めて日本に10か所もなく、良い手術であるのにエキスパートが少なく、技術が普及しないのも無理はありません。欧米ではHoLEPのエキスパートと呼ばれるのは年間100例以上の件数を行う医師と言われています。私は幸い、県内外から通常の肥大症の手術では治療が困難な症例を多数ご紹介いただいております、その数をずっと満たすことができ、技術の維持、向上をさせることができたため、良好な成績を残しています。当院ではこれまで約1000例のHoLEPの経験があります。患者さんに厚生連に来てよかったと言ってもらえることが当科の技術研鑽の励みになっています。

このたび当院では内視鏡手術に使用するレーザー機種を更新し、ルミナスパルス120Hという超高性能な最上位機種を導入しました。非常に高出力パワーが出せること、新技術であるMOSES（モーゼス）技術、レーザー設定を多彩に変更して使えることが特徴です。機械の性能は素晴らしく、自動車だとするならばF1マシンです。使いこなすには十分な知識と技術が必要です。非常に高額のために国内ではまだあまり普及していません。しかし、これにより前立腺肥大症や尿路結石症の内視鏡手術の効率が劇的に改善し患者さんの利益につながるため、富山県では初めて当院で導入されました。

令和3年7月から前立腺肥大症にMOSES（モーゼス）を使ったHoLEP、MoLEP（モーレップ）を始めました。MoLEPはHoLEPをさらに超える治療成績が海外から報告されており、さっそく当院でも開始しています。これまでのHoLEPよりさらに良好な術後経過をたどっています。MoLEPはまだ新機種を導入する施設が少ないこともあり、日本でも数か所でしか行われていない治療で北陸では当科でのみ受けられます。もちろん保険適用はあり、従来のHoLEPと患者さんの負担は同じです。





MOSES（モーゼス）技術は尿路結石症の内視鏡手術にも応用され、結石の破碎効率を格段に向上させます。当科はこれまでも北陸随一の結石治療の設備を有しており、ほかの病院では治療が困難な難治性結石など、多くの手術実績（病院情報局<http://hospia.jp/dpc>）をあげていますが、MOSESを使用することでさらに治療効果の向上、再発率の減少が期待されます。

前立腺肥大症や尿路結石症はがんとは違い、生命に直結しない…とされていますが、腎機能の低下、細菌感染、睡眠不足など生活の質の低下につながり、晴れ晴れとした生活を送れなくなったり、生命にかかわる重大な問題を引き起こしたりすることもあります。当院にはほかの病院で「手術できません」「治りません」「一生カテーテルを使ってください」と言われた患者さんが多数来られますが、多くの場合は治療できることが多く、「もっとはやく来ればよかった。これまでの数年間はなんだったのか」と言われることも頻繁にあります。

手術支援ロボット「ダヴィンチXi」、超高性能レーザー「ルミナスパルス120H」を使った手術で多くの患者さんの健康維持に貢献するだけでなく、手術に至る前の治療を重視し、病状の進行リスクを考慮しながら、患者さんの希望を取り入れた多彩な治療の選択肢を患者さんと共に決めて、納得のいく、安心、安全、満足の医療を提供できればと考えています。

高岡医療圏の方も、遠方の方も高岡市永楽町、厚生連高岡病院でお待ちしております。

☆厚生連高岡病院☆

院内PET-CT検査の導入について

厚生連高岡病院

副院長・腫瘍内科診療部長

しばた かずひこ
柴田 和彦



当院では地域がん診療連携拠点病院として、かねてより院内でのPET-CT検査体制の整備を計画しておりました。これまで、富山県等が中心となって設立された「とやまPET画像診断センター」（富山市）を利用させていただいておりますが、やはり移動が困難な患者さんも少なくなく、コロナ禍の中で人の移動を極力減らす意味からも、呉西地区でのPET検査拠点がどうしても必要と判断し、導入を決断いたしました。10月末から11月中には稼働開始できるよう、現在、急ピッチで作業を行っております。PET-CTの器材としても、北陸地域で最高性能の装置を導入することになりました。PET-CTは、肺がんやリンパ腫をはじめ、多くの臓器のがん診療において、欠くことのできない診断装置であり、高岡医療圏はもとより、呉西地区全体から沢山の先生方、患者さんにご利用いただきたいと考えております。高岡・砺波両医療圏の共有財産として、圏域内の医療機関に広く共同利用いただけるよう、様々な仕組みを考えてまいります。他院からご依頼いただいた際にも、主治医の先生には当日中に直接画像を確認いただけるようになります。来年度からは検診での利用も予定しております。

高額な医療機器となります。ぜひ、地域住民の皆様のためにご活用いただき、がん医療の向上に結び付けていきたいと思っております。

GE製 最新PET-CT装置
"Discovery MI -AM edition"

・半導体デジタル4リング検出器
・64列MDCTに逐次近似画像再構成



“高画質で信頼性の高い画像を提供し、
世界最高レベルの検査を地域住民の皆様にご提供いたします”

こんにちは（^-^） 認定看護師です♪

厚生連滑川病院

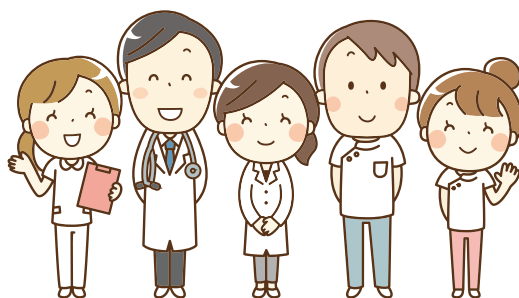
摂食・嚥下障害看護認定看護師 藤井 友子



食事は単に栄養を補給するだけではなく、食べる喜び、生きる喜びを味わうものといってもよいものでしょう。しかし、加齢や病気の影響を受けて「食事に対する認識」「食べる動作」「咀嚼・飲み込むこと」等に障害を生じ、食べることが困難になることがあります。摂食・嚥下障害看護認定看護師はこのような障害を受けた方の残された機能を最大限に活用できるよう評価し、安全に食事を楽しむことを支援する役割があります。また、低栄養、脱水、誤嚥性肺炎、窒息といった二次的障害を予防するリスク管理も必要です。様々な職種と協力しながら、患者さんが障害と共に生活できるよう目標を考え支援していきたいと考えています。入院するということは特別であり、食事一つとっても、いつもと違う環境で異なる食具を使用し、普段と違う味や食感の食事を家族と離れて食べることになります。単に「安全に食べる」というだけではなく、このような入院環境の中で生活するということを常日頃から意識し、温かい関わりが大切だということを忘れないようにしています。

当院では40歳以上の入院されるすべての方に「飲み込みに関する質問用紙」を配布しています。ここ2～3年の間に嚥む力が弱くなった、水分や食事でむせる、食後にガラガラ声が出る、など様々な摂食・嚥下障害に関する質問用紙です。何か一つでも症状があれば、看護の問題として捉え、入院時からケアが行えるように計画が立てられます。食事が開始される前に水やゼリーを使って問題なく「飲み込めるか」を看護師が評価します。むせたり、ガラガラ声になったり等、問題があれば専門チームが介入します。リハビリ科、認定看護師、栄養サポートチームが食べるための姿勢・食事の形態・食べ方・口腔ケア方法・訓練方法・栄養に関するアドバイスのカンファレンスを行っています。ベッドサイドには、統一した看護が行えるように食事支援方法をわかりやすく掲示し、退院に向けての指導にも活用しています。

これからも患者さんが安心して食事に関する看護が受けられるように病院スタッフと共に支えていきたいと考えています。よろしくお願いします。



新型コロナウイルス感染症治療応援の依頼を受けて



厚生連滑川病院

感染管理認定看護師 宮坂 純香

私は、新型コロナウイルス感染症治療応援の依頼を受けて、中等症患者受け入れ医療機関である大阪府泉佐野市の「りんくう総合医療センター」で派遣看護師として看護業務を行ってきました。

りんくう総合医療センターは重症病床15床、中等症病床28床をコロナ陽性患者病床として稼働していました。病棟では他病棟からもリリーフナースとして応援勤務している状況でしたが、私を含めて全国より派遣看護師として2か月にわたり延べ約15名の看護師が派遣されました。

私が派遣された期間は6月上旬であり、大阪府のコロナ陽性者数が1000名を超え、重症病床稼働率が100%を超えていた時期に比べ、コロナ陽性者数200名程度、重症病床稼働率70%と落ち着いてきた時期でもありました。しかし、りんくう総合医療センター重症病床はほぼ埋まっている状態であり、新たに重症患者を受け入れるために患者さんを移動させて対応する中等症病棟での勤務でした。患者さんは人工呼吸器管理を行い、点滴も複数入り、中には人工透析を行っている方もおられました。入院された患者さんの中には、発症より期間が経過しており入院時の検査ですでにコロナ検査陰性になっておられるが、重度の呼吸器症状が残っているという状態の患者さんや、入院時は酸素の吸入量が少ない患者さんでも1日で人工呼吸器を装着しなければならない状態に悪化する方も多く、それらの患者さんの対応に追われる状況でした。また、人工呼吸器を外すことができず人生最期の看取りに入っている患者さんも入院されていました。看護師は個人防護具を着用し3名1チームで2名がレッドゾーン（汚染区域）に入り患者さんの点滴の管理や身体の保清、着替え、検査、呼吸リハビリテーション、病室内の環境清掃を行いました。リーダーはグリーンゾーン（清潔区域）からレッドゾーンで不足する物品の受け渡しや、心電図や血圧計など様々なモニター観察を行い、医師との連絡をとりレッドゾーンの看護師へ指示を出します。患者さんのそばにいる看護師は指示を受け点滴や人工呼吸器などの変更を行っていました。いったんレッドゾーンに入ると1時間程度出ることができず、出ると防護具の中には汗がたまりそのたびに着替えも必要でした。また、退院されてもすぐに次の患者さんの入院連絡が入り、退院された部屋の清掃や消毒、準備で汗びしょりとなる状況でした。



りんくう総合医療センター



その中で、コロナ検査陰性が確認されて退院ができる患者さんや、一般病棟に移りリハビリを受ける患者さんもおられ、一般病棟に移った患者さんが「自宅待機・ホテルでの高熱が一番つらかった。そして、1週間を過ぎて重症になり早く治療を受けたかった」と話をされました。大阪府では陽性者数が多く無症状者や軽症者は自宅待機やホテル療養となっています。富山県では陽性者は無症状者も入院調整できる医療体制であり、その重要性を実感しました。

退院される時に「ありがとう、一生感謝を忘れることができない」などと感謝の言葉を述べられたり、手を合わせて帰られる患者さんの姿に医療従事者として、とても励まされました。

しかし、重症・中等症病棟であり亡くなる方もおられました。自分が感染したばかりに家族内に感染を拡大してしまい、看取りとなり、家族の悲しみやショックの大きさを肌で感じることもあり、とても心が痛みました。また、コロナ病棟は面会禁止であり、家族は元気な姿しか思い出すことができず最期のお別れを受け入れられずにおられる家族もおられました。退院時には入院前に着用していた衣服や帽子、スカーフ、お気に入りの物を身に着けて、お見送りを行っていました。この時は、自分だけでなく家族や周りの人のために感染には気を付けなければならないと実感しました。

施設は関西国際空港に近く、空港検疫で陽性が判明し入院する患者さんも多くおられ、病棟の患者さんの半数は外国籍の方で、コミュニケーションを取るのが大変でした。マスクを着用しているため声が聞き取りにくいこともあります。言葉の壁が大きく立ちばかり、身振り手振りを交えたり、絵を書いたり、翻訳機を使用したりと会話に苦労しました。また、変異株も少しずつ増加している状況で、株が違う場合は防護具をすべて交換して部屋に入る必要があり、次から次へと部屋を移動する中で、間違いがおきないか、防護具はきちんと着用できているかなどとても気を使い、看護師同士でお互いに確認しながら行っていました。

コロナ陽性患者を受け入れるには、一般の方との接触を避けるための搬送路を確保するために事務員・防災センター職員の協力、また、味覚障害がある患者さんには少しでも食事がとれるように、栄養管理課が味などの工夫、多国籍のための食文化・食習慣にこまめに対応しており、コロナ検査においては臨床検査部、放射線部、呼吸リハビリテーションではリハビリテーション部などコロナ陽性患者を受け入れるために様々な職種の職員が一丸となり対応しており、今まで以上に施設職員の協力も重要と強く感じました。

コロナワクチン接種が進められる中、コロナ陽性者数は増減を繰り返しています。まだまだ感染対策は不可欠な状況にあります。

私は、今回、貴重な経験をしました。今後の自施設の感染対策に大きな力になると思っています。



中等症病棟（オープンベッド）



中等症病棟

社会に学ぶ「14歳の挑戦」

滑川病院では、社会に学ぶ「14歳の挑戦」事業に参加し、協力しています。昨年度は新型コロナウイルスによる感染リスクから、教育委員会と学校側での検討の結果中止となりましたが、今年度はコロナ禍を踏まえて準備がすすめられ、7月5日より5日間6名の生徒を受け入れ病院での仕事を体験しました。『人の役に立つ仕事がしたい』『仕事の厳しさややりがいを感じ将来に活かしたい』など目的を持ち緊張した初日で始まりましたが、病棟（看護部）だけでなく臨床検査部、画像診断部、栄養管理部、リハビリテーション部、薬剤部での体験を通し、医療従事者として医師、看護師以外の職種について知ってもらう良い機会にもなりました。最終日には6名が、なりたい職業として多かった看護師と薬剤師の方にインタビューする場もありました。3名ずつに分かれてその職業に就くための資格・条件、大切なことや苦労、適正・性格、選んだ理由、仕事を通しての生きがい、中学時代にしておくことなど決められた項目を中心にインタビューしている生徒達は、とても生き生きとしていました。後日生徒からの手紙には、『真剣に取り組む大切さ』や『なりたい職業への気持ちがより高まった』という嬉しい言葉が見られました。今後もこの事業に参加し未来の人材育成に協力していきたいと考えます。



高校生の1日看護見学

富山県と富山県看護協会主催で、毎年7月に県内の病院施設で「高校生の1日看護見学」を実施しています。この事業では高校生が看護に対する理解を深める事ができるように支援しています。厚生連高岡病院では、7月8日（木）、15日（木）の2日間で合計37名の高校生たちが参加しました。臨床現場では、足浴や車椅子護送などを体験し、座談会では体験したことの感想を話し合いました。高校生たちが得たものは多く、「患者さんを車椅子で検査に連れて行った後に、『ありがとう』と言ってもらえて嬉しかった。」「看護師さんは、薬の確認を慎重にしていた。」「患者さんのために一生懸命な姿をみて、看護師になりたいとさらに強く感じました。」などと発表している表情はとても輝いていました。

高校生たちの看護職への進路選択の参考となる良い機会になったと思います。看護師への道を実現するよう頑張してほしいと思います。



☆厚生連高岡病院☆

全病棟にてオンライン面会ができるようになりました(^_-)-☆

令和2年12月から新型コロナウイルス感染防止対策のため、入院患者さんとの面会を制限させていただいております。この間、患者さんやご家族の皆様にはご不便をお掛けしました。この度、オンライン面会を全病棟で開始することとなりました。今後も質の高い医療の提供はもちろんです、患者サービスの向上に対しても努力して参ります。

(オンライン面会の概略)



オンライン面会の申し込み方法



- 1 オンライン面会用の右記「二次元コード」をスマートフォンなどで読み取り、LINEの「友だちを追加」を行って下さい



- 2 ①平日9時～10時までに、電話で「オンライン面会窓口」へご連絡いただき、面会日時をご予約下さい
※土日祝日と面会希望当日の受付はしておりません



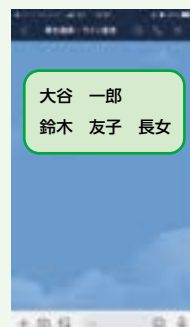
(連絡先) 厚生連高岡病院
0766-21-3930 (代表)
「オンライン面会窓口」へお申し付け下さい

- ②「患者名」「面会家族名・続柄」「面会希望日・時間(第3希望まで)」をお伝え下さい



- ①患者名
- ②面会家族名・続柄
- ③面会希望日・時間(第3希望まで)

- 3 LINEの「厚生連高岡病院オンライン面会」のトーク画面で、メッセージボックスに「患者名」「面会家族名・続柄」を入れて送信して下さい



- ①患者名
- ②面会家族名・続柄

- 4 担当者より、面会の事前準備完了の返事が送られてきたことで予約完了とします
送られてきたメッセージ内容に相違がある場合は「オンライン面会窓口」までお問い合わせ下さい
希望予約が確保できれば、日時を忘れないようお願いします



※詳しくは厚生連高岡病院ホームページをご覧ください ▶

乗こ前ウ先に誘せ疲れジクらまい自でにで世変取てイ
りとのイのはつてれたハロなした身は挑でのわり約ル世
切をよル見感てくや時タだいたき、いしなだしく年感中
祈うスえ謝いれはがイ場も海先でたかかま環が染新
りなでなでたまト大11所て釣輩し方つらし境症新
まし、生すいだしレ興匹匹でとるり方よ々たこたもちが
し、この活が新、いたスでし小んにうも趣そ、こき私流
う!!!時で必コだ先釣忘普たさな釣果は、
(R・K)代きずロま輩りれ段。なは、
をる以ナだ方にさの釣キ、はなして私のどまな様をしウ

編集後記

表紙写真



(写真 赤羽 仁諭氏)

チューリップとブルーインパールの共演

4月22日、2年ぶりとなる「となみチューリップフェア」会場の上空に6機のジェット機が飛来した。航空自衛隊のアクロバット飛行チーム「ブルーインパルス」がフェアの開幕を記念しパフォーマンスを披露。青空をキャンバスに白いスモークで華麗な模様を描く。色鮮やかな300万本のチューリップとの共演に多くの方が魅了された。

厚生連高岡病院

高岡市永楽町5-10 TEL(0766)21-3930
http://www.kouseiren-ta.or.jp

厚生連高岡病院 外来診療受付時間

診療科		午 前	午 後
内 科	総合診療科・感染症内科	月・木・金 11時30分まで	予約制（再診のみ）火のみ
	糖尿病・内分泌内科	月～金 11時30分まで	予約制（再診のみ）月のみ
	腎・膠原病内科	月～金 11時30分まで	
	呼吸器内科	月～金 11時30分まで	
	血液内科	月～金 11時30分まで	予約制（再診のみ）水、金のみ
	循環器内科	月～金 11時30分まで	予約制（再診のみ）水のみ
	腫瘍内科	月～金 11時30分まで	予約制
	緩和ケア外科	月・水・金 11時30分まで	
	消化器内科	月～金 11時30分まで	
	脳神経内科	月～金 11時30分まで	
	精神神経科	月～金 11時30分まで	
	小児科	月～金 11時30分まで	月 14時～16時 循環器外来（第2・4週 予約制）、こどもの心外来（予約制）、アレルギー外来（予約制） 火 12時30分～13時30分 健診受付、15時～16時 予防接種（予約制）、14時～16時 こどもの心外来（予約制） 水 14時～16時 こどもの心外来（予約制）、神経外来（第3週のみ 予約制）、アレルギー外来（第2・4週 予約制） 木 14時～16時 成育フォローアップ外来（予約制）、神経外来（第2・4週 予約制）、慢性疾患（予約制） 金 14時～16時 循環器外来（予約制）、こどもの心外来（予約制）
	外科・消化器外科・乳腺外科	月～金 11時30分まで	
	整形外科	月～金 11時30分まで	
	形成外科	月～金 11時30分まで	
	脳神経外科	月・水・金 11時30分まで	午後なし
	皮膚科	月～金 11時30分まで	月、水、木 14時～16時 再診のみ
	泌尿器科	月～金 11時30分まで	火 腹腔鏡手術ロボット手術レーザー手術外来 木 14時～16時（予約・再診・処置患者のみ 初診不可）
	産婦人科	月～金 11時30分まで	月、金 14時～ 助産師外来（予約制） 火 12時30分～ 1ヵ月健診（予約制） 火、水 14時～ 2週間検診・すくすく外来（予約制） 月～金 母乳外来（予約制） 水 14時～16時 妊婦健診
	眼科	月～水、金 11時30分まで、木 完全予約制	水、金 14時～16時 予約制
	耳鼻咽喉科	月～金 11時30分まで	火、木 14時～16時 予約制
	放射線科	月～金 11時30分まで	予約制
	放射線治療科	月～金 11時30分まで	予約制
	麻酔科	月～金 11時30分まで	
	呼吸器外科・心臓血管外科	11時30分まで（呼）月・木 再診、火・金 予約のみ （心）月 新患、水・金 再診、火 予約のみ	午後なし
	歯科口腔外科	月～水、金 11時30分まで、木 11時まで	月、火、水、金 予約制（再診のみ）
	リハビリテーション科	月～金 11時30分まで	

* 午後の診療受付は、変更になる場合がありますので事前に各科へご確認ください。

厚生連滑川病院

滑川市常盤町119 TEL(076)475-1000
http://www.kouseiren-namerikawa.jp

厚生連滑川病院 外来診療受付時間

診療科		午 前	午 後
内 科	科	月～金 11時30分まで 水 禁煙外来	電話にて診療の可否を確認 一般外来 月、水 14時～15時30分 呼吸器外来 月、水 13時30分～16時（予約制） 予約診療 第2水曜日のみ 16時～18時
	科	月～金 11時30分まで	月、金 14時～16時（火、水、木は電話にて診療の可否を確認）
	精神科	月～金 11時30分まで	金 一般外来 13時～14時30分 金 予防接種（予約制）、乳児健診（予約制）
	小児科	金のみ 11時30分まで	救急患者
	外科胃腸科	月～金 11時30分まで	木 14時～16時（月、火、水、金は電話にて診療の可否を確認） 第1・3・5火曜日 リウマチ外来 14時～16時（予約制）
	整形外科	月～金 11時30分まで	電話にて診療の可否を確認
	脳神経外科	月～金 11時30分まで	月 午後手術 火 13時30分～14時（検査・処置の予約患者のみ） 木、金 13時30分～15時
	皮膚科	月、火、木、金 11時30分まで	月、火、木 予約制 水、金 午後手術
	泌尿器科	月～金 11時30分まで	月～金 骨盤ケア外来（予約制） 水 母乳外来（予約制）
	産婦人科	月～金 11時30分まで	火（不定期）角膜・感染症専門外来 13時～15時30分（予約制） 第4水曜日 緑内障専門外来 13時～15時30分（予約制）
	眼科	月、水、木、金 11時まで（予約制） 火 10時まで（予約制）	火、木、金 13時30分～16時30分 第1・3火曜日 補聴器相談外来 第3金曜日 CPAP（睡眠時無呼吸症候群）外来
	耳鼻咽喉科	午前診療なし	13時～17時
	放射線科	月～金 11時30分まで	
	リハビリテーション科	月～金 11時30分まで	

* 午後の診療受付は、変更になる場合がありますので事前に各科へご確認ください。



理念

患者さんと職員が信頼・安心・満足でき、
幸せになれる病院を目指します



理念

安全で安心な医療を提供し、地域住民から
信頼されるアットホームな病院を目指します